かけぬける!

青果ランナーの一日

つくる人とたべる人をつなぐ、青果ランナー。そんな彼らの一日に密着!

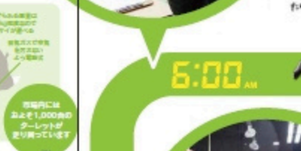
01 集荷

担当者 当日夕刻～当日早朝

産地から送られてきた野菜や果物は、その日の夕方には市場に搬ばれます。当日・産地・等級・銘柄ごとに集めて卸売場に並べられた野菜や果物から、中井青果の社員がフォークリフトなどを使って仕入れた商品を確保していきます。

CHECK! 青果ランナーの乗り物

正式名称「ターレットトラック」。荷物のこと指す。軽運搬車等共通で運転可能。小回りがきくので狭い場所でも活躍に向いている。最近の車両ですぐ乗れるようになる。



2:00 AM

4:00 AM

02 前出し(店売り)

販売者・配送者・移動者 午前4時頃までに

集荷してきた野菜と果物を、市場内にある中井青果の店舗の前にきれいに並べて、お客さんに売る準備をします。卸売先のバイヤーがその日の商品の状態を確認しやすくするためです。

CHECK! せりのハンドサイン

下の9つのハンドサインは、大阪市中央卸売市場で実際に使用されている数字のサイン。それぞれ何の数字か当ててみよう!(答えは次ページ)

04 店前販売

販売者 午前4時頃～午前6時頃

卸売先のバイヤーにその日の品物を見せて、数量や値段などを話し合いながら決めていきます。最近では携帯端末に送られてメールやウェブ、FAXなどで仕入れるバイヤーも増えています。

6:00 AM

03 せり

販売者 午前5時～

商品の値段を決めるせりは品目ごとに時間を決めて行っています。市場中に響き渡る大きなサイレンが開始の合図です。野菜は午前5:00から、果物は午前5:45から。

7:00 AM

05 場内配送

配送者 午前4時～午前7時頃

当日の「店頭販売」や、翌日までの予約などで売れた品物を、フォークリフトやターレットといった乗り物を使って市場内にある運送会社のトラックまで運びます。間に合わなかった場合や積み残しがあった場合は、市場外の卸売先へ直接配送することもあります。

CHECK! 青果ランナーのフィールド

中間は2時りのような花屋やかき花のに、間になると組みたいに頼かになる。市場内には間り時間会社がたくさんあるけれど、ライバルであって同時のような不動産会社等、野菜を買い取りしたりすることも、市場内には、おいしい定食屋やコンビニ、文房具店から、食料品、卸問屋まである。

実はほぼでも入れるので、気軽に市場に来てください(ターレットに注意!)

06 仕分け 在庫確認

配送者 配送完了後～午前中

予約分や翌日販売分を品種ごと銘柄(例:大玉馬鈴薯)にしまって、品目・等級・規格ごとを確認。販売前に確認しますが、倉庫にある在庫の数とデータ上の在庫数が必ず同じになるように、慎重に確認作業をしなければなりません。

CHECK! 青果ランナーのお勉強

青果市場で活躍するためには、覚えて置くべきことがたくさんあります。

【産地ごとの最後の変化】
葉は高原などの寒冷地産、茎は関東や九州産が多い。

【銘柄ごとの保冷ルール】
銘柄のデザイン、等級・規格の分け方、箱に入っている数や重さなどが産地によって違う。

【天候ごとの最後の変化】
天候によって入荷量が変わる。

中井青果の社員のスマホには約3万つ以上の天気予報アプリが入っています

野菜を食べよう!

07 仕入販売データ作成

販売者 午前4時頃～午前中

仕入れと販売の内容に沿って伝票を作成し、取引の終った品物の品名・産地・等級・数量・価格を記録します。伝票は卸売先のバイヤーや自社の事務管理事務に渡すものなので、間違が残るように作業を慎重に行っています。

CHECK! 全国2位の取扱高

青果ランナーが働く大阪市中央卸売市場(本場(ほんじょう))は、東京の「大田市場」について全国2位の青果取扱高を誇ります。一日の青果取扱量は約2,000トン。これはプロ野球70個分の重さ。平均10kgのダンボール箱に換算してみると200,000箱分もの野菜と果物が、大阪市中央卸売市場本場を通って青森～沖縄に流通しています。

08 仕入販売データ品合わせ

販売者 午前8時頃～

伝票に記載された取引の内容を社内システムに入力します。このデータをもとに納品書や請求書が作成されます。販売員はこのデータを元にした「帳簿」を作成が、実際の在庫数と違いがないか確認していきます。相違があった場合は解決するまで調査します。

11:00 AM

09 商談

販売者 取引先ごとに決まった曜日・時間

卸売先を訪問したり、バイヤーが来社したりして、今後の取引について価格の相場や天候を確認しながら、特売チラシの提案や値引交渉をしたり、産地の状況などの情報交換をしたりします。